校友時報

昭和44年7月21日
編集人兼発行所
秋田県能代市辻分町4番26号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　大藤堂印刷所

# 能高祭のテーマ決定

## 何のために

先日、第十回能高祭のテーマ及びキャッチフレーズに関してのアンケートを行なった結果、テーマには、「何のために…」、キャッチフレーズには、「吠えろ！今こそ能高魂」ほか二編が選び出された。また、H・Rの時間を利用して能高祭についての話し合いなどが行なわれた。

テーマには、今回決まったテーマのほかに「人間」「若者の追求」「存在」「現代高校生像」などが案として出されていた。「何のために…」のパーセンテージ及び人数は次の通りである。

▼何のために……▲

| 有効枚数 | | | |
|---|---|---|---|
| | | | (二五六名 33%) |
| 一年 | 二六二枚 | 九二名 | 36% |
| 二年 | 二六五枚 | 八六名 | 32% |
| 三年 | 二六〇枚 | 七八名 | 30% |

「何のために……」が、全有効枚数のうち三分の一を示していることがわかる。ある二年生の生徒に「何のために……を選んだ理由は？と聞いてみると、何のために……というテーマは、我々の日常の生活が、とすればのらりくらりな我々に文化祭を通して、何のために生きるかを身近に考えると、何のために生徒会が存在するのかと、いろいろ考えさせてくれる。だから私は、何のため……を選んだ」と語っていた。また、キャッチフレーズには、次の三点がプリントによって発表された。

●吠えろ！今こそ　能高魂
●やろう　がんばろう　能高祭
●生徒の生徒による
　生徒のための能高祭

どのキャッチフレーズもみな我々能高生の奮起を望んでいる言葉である。文化祭は、日頃の文化クラブの活動を一般人、他校生、能高の仲間に知ってもらうための文化祭なのである。運動クラブがみんなの熱狂的な声援に励まされて、晴れの試合でファイトを燃やすのと同じように、文化クラブのすべてである文化祭は、能高生一人一人の熱狂的な"声援"即ち、自主的な協力心が必要なのである。

前夜祭にしろ装飾関係にしろ、文化祭に関していろいろな問題が取り残されてはいるが、何に対よ、吠えろ能高生、やろう能高生、がんばろう能高生、今年こそ、能高祭の自主的な文化祭を。

## 初の試み歌舞伎上演

国語科の要望により去る六月十九日本校体育館にて歌舞伎教室が開催された。これは「つくし会」によるもので、本校では初めての試みであった。三百五十年の歴史をもつ世界に誇る我国の歌舞伎劇を上演することによって、国語教材のみならず社会観察に役立たせようとするのがその主旨である。

まず、最初に主任の方による、元祖出雲お国から始まったと言われる「歌舞伎の解説」があった。これによると、歌舞伎は東洋の古くから伝わる「儒教、文学、音楽、能楽、文楽」等を取り入れ一つの劇となった。その成立は江戸時代初期までもさかのぼると言う。

世界の演劇中、男が女に扮装して演技をする国は日本以外にはないという関係から、「女形扮装の実演」が催された。五十五歳の男性が、若さと美貌にあふれた二十歳前後の女性に早変りするというマジック。結果は正に魔術という以外に何ものでもなかった。そしていよいよ実演に移り「冥途の飛脚、梅川忠兵衛、新口村愁二対面」が上演された。大学語調のせりふは我々に少なからず抵抗を感じさせはしたが、迫力ある音調、女性に扮した演技、全身から沸き上る個々の妙技は目を昂奮るものがあった。右手の隅で三味線を引く人や物語を語る人らの熱演も実にこの舞台を盛り上げた。最後に歌舞伎十八番「勧進帳」が実演された。これは我々が歴史上よく知っている事なので、特に我々の興味をひいた。テープコーダから流れたダイナミックな長唄、そして弁慶の身に迫るような激しい踊りは最大のヤマであった。

こうして二時間四十分に渡った歌舞伎教室は幕を閉じた。普段見られない物だけに、各自それぞれの感想を抱いたことであろう。一部の者にとって前評判は歌舞伎である故のあまり良くはなかった。しかし、過去の日本文化を理解できずに、どうして明日の文化を築くことができよう。我々はまず拒否する前に、このような物は虚心で受け留めるべきである。

○○○
○○○

## 部説　自己批判

最近、当人の間違った判断、行動から起こった問題が非常に多くなってきている。交通違反問題、そして先日の遅足問題もそうである。生徒会の不振もその一端の現われである。集団生活とは集団中の個々の当人がその中の規則を守り、そして協力することによって成立且推進することの可能な組織である。生徒会に対して「生徒会が不活発だ！」「生徒会は何をしている！」などと言う者がいるが、筋違いである。生徒会とは我々の代表によって運営される集団であって、孤立した何物でもない。生徒会の不振、すなわち我々の不振である。それゆえに自己を独立して考えるのは間違っている。皆がより生徒会の行事などに協力し、生徒会の努力に対してもっと励ましてやるべきではないだろうか。そうして一生徒会の進歩が望まれるのだと思う。

遅足の問題も似たようなものである。（二面参考）遅足とは本来学校の行事であり遊びではない。特に今回は学校林見学という肩書が付いていたのである。遅足に参加しなかったという事は授業放棄と同様である。いやそれ以上に悪い事である。彼らは、もしその日普通とおり授業を行なっていたなら休むことのなかった者たちにちがいない。遅足に出掛けて何になろうか、というのが本音であったろう。しかし、行事への不参加はよくない。これもまた、どこか間違った考え方をしているようである。

最初に交通違反問題と掲げたが、このような誰でも守れるような事を守れないのだから矛盾している。無意識の内に違反していたのか？、それともたかが規則ぐらい（何少しぐらい）と思って違反したのか？とっちにせよ不注意、又はその場に於ける考え方が甘かったのではないだろうか。たとえその結果、自分に何か得があるにしても、規則にそむくような行為は良くない。そういう利己主義的考えは絶えず他者に対して何らかの形で害を及ぼしているものである。最近、「最近の若い者は……」とよく言われるが、なぜそういう事を言われるのだろう。昔と今とでは大部変わっている。考え方も違っていたに違いない。しかし、思考の根本は変わっていないと思う。我々はまだ若い、それだけに経験が浅い。まだまだ知るべき事が無数にあるのである。我々の思考または判断力は経験の積重ねによって築かれて行くものである。ところが実際は高校生活の約二年間が受験勉強によって、空白に近い状態になっている。受験勉強のためならそれもやむをえないと言えばそれまでであるが、やはり、それを補う精神教育（敢てそう呼ばせてもらう）が必要だと思う。

我々の生活に自己を批判する時間があるとたいへん良いと思うのだが。

## 月着陸に思う

伊勢義広

いよいよ、日本時間で二十一日午前五時十九分、人類初の他の天体への着陸が試みられる。

初の人工衛生スプートニクが地球を回ったのが、たしか僕が高校二年生の時だったと思う。明方、能代の上空を通過するのを見て、興奮をおぼえた。あれから十二年になるが、今、人間が実際に月面に足を踏み入れる機会が訪れたのである。

米ソ両国の国家威信をかけての競争のおかげであるにせよ、通信その他の分野でめざましい発達がもたらされた。しかしながら、実用面だけが強調され、基礎的な素粒子等の地味な研究は、余まり日の目を見ないのが昨今の傾向であり、この状態が続くならば、自然科学の今後の発達は望めないと言う科学者も出て来ている。

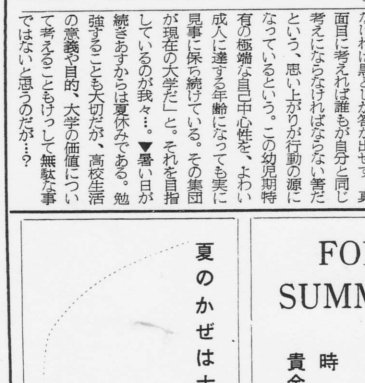
現在、地球の人口は三十三億であるが、各国が保有する火薬、原水爆はT・N・Tにして三億トンもあるという。火薬に換算して一人あたり五トンもあるトラックで三十台弱と聞いている。我々は、毎日爆弾のすきまに生活していると言っても過言でない訳である。ミサイルの研究が月着陸を生み、原子爆弾が原子力発電を生み出しているのを見ると分かる様に、自然科学は軍事と密接なかかわり合いを持ちながら発達して来ている。軍縮会議では軍縮を口にしながら、一方では軍備の拡張が進められているのが実情である。

太陽の年令は二百五十億才、地球は四十五億才、人類は数十万才という。しかしながら、我々一人の寿命はせいぜい百年である。太陽の寿命はあと二百五十億年、生物学的に見てもそれまでは人類は生存し得ないし、人類は地球最後の高等動物になろうと言われている。

今、月着陸を前にしてエールキュリーの『自然の神秘を理解することは、人類にとって利益となるだろうか。その秘密から、利益だけを引き出せるほど十分に、人間は成熟しているのだろうか。あるいは、この理解は、人類にとって有害なものだろうか。

私自身は、人類が新しい発見から不幸ならば、人類の幸福を引き出すことが出来ると信じるものである。』を思い出し、自然科学の成果が、軍事力の誇示や戦争に使われることがないように、地球は一つ、社会体制に違いはあっても武力によるのでなく、話し合いによる平和共存を推進めることを、今一度考える必要があると思う。

（理科）



## 漁点

君は何の為に高等学校に入ったのか？
そんな問いに能高生は、「大学に入る為」と、答える生徒が大半であろう。▼大学入学の為の予備校的存在にある現在の高校教育体制によって、高等学校の意義とは、そして目的とは、何なのであろうか。▼わが校は大部分の生徒が大学をめざしている。そのせいか校内には、笑いも少なく、話題は大学の事、試験の事、教室には緊張が常時みなぎり、目は血走る。（ちょっと大げさではあるが…）学校に来ることは苦痛でこそあれ楽しみではない。これが本当の高校の姿なのか。これが青春というものなのか。大学入学という目的達成のため、ひそかにこっこっと眠られたせまい自分の生居の中で餌をついばみ、排便をくりかえす。これが青春と呼べるものだろうか？そしてまた、我々が眠る事さえも惜んで苦労して入るだけの価値を大学は持っているのだろうか？そこには我々が高校生活で失いかけている"青春"があるのだろうか。▼現在の大学では、教育が行なわれていない。そう言っても過言ではあるまい。紛争……その言葉一色にぬりつぶされた大学……その意義はどこに？▼現在の大学一般を評して、こう毒舌をはいた人がいる。「自分自身にはひどく寛大であり、他人に対してはいたってきびしく、自己主張はするが他人の意見を理解しようとはせず、白でなければ黒としか答が出せず、真面目に考えれば誰もが自分と同じ考えにならなければならない苦だという、思い上がりが行動の源になっているという。この幼児期特有の極端な自己中心性を、よわい成人に達する年齢になっても実に見事に保ち続けている。その集団が現在の大学だ」と。それを自指しているのが我々…。▼暑い日が続きあすからは夏休みである。勉強することも大切だが、高校生活の意義や目的、大学の価値について考えることもけっして無駄な事ではないと思うのだが…？

学生のみせ
キムラヤ
はたまち　2－5535

夏の日に
もうひとりのあなたを
佐藤写真館
大町　T2－2433

夏です！
キャンプ用具・テント……
各種入荷　一度どうぞ……
納谷スポーツ
西通り町　T2－3429

夏に一食
栄養のあるパン
Aワン
上町　T2－2343

もうすぐ修学旅行の季節です！
京都・神戸・銀座
どこへ行ってもさえるのは
なんといっても高屋の学帽……
帽子の専門店　高屋
T2－4988

FOR SUMMER
スバラシイセイコーのメカニズム
時計
貴金属　ヤナセ
TEL 2－3718

夏のかぜは大敵です
みどり薬局
畠町　T2－3531